

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



地域への貢献！ ～募金・チャリティーショー～



歳末助け合い運動が全国的に行われる中、わが一中も生徒会執行部が中心となり、この運動に参加し、チャリティーショーでは市民の皆さんに向かって「日本一熱く、絆強き学校」一中を工夫をこらして紹介した。特にフォークダンスを踊ってみせるなど、これまでの一中生の壁を乗り越えた明るく元気にはじける姿を堂々と披露した。いいね～。あんな場であれだけのパフォーマンスを、殻を破ってやれる執行部、最高！そして、3年生は自慢と誇りの絆合唱をみせた。素晴らしい。会場中がその歌声と集団の姿に引きこまれていた。こうやって地域の行事に積極的に参加することで、普段は見えてこない地域を支える人たちの姿に気づける。自然と地域の皆さんから感謝される。人のために汗を流すことの素晴らしさを、なんとなく肌で感じることができる。ふるさと津久見がじわっとみんなの中にしみ込んでいく。将来どこの地で暮らそうとも、自分を育ててくれた「ふるさと津久見」が必ずきついときに自分を支えるバックボーンとなってくれる。地域に育ててもらおうわが一中だからこそ、日々の暮らしの中で我々は地域に少しでも貢献することを心がけていこう。今できることを考えてみよう。「先手挨拶」は全員ができる一番の地域貢献！まずはここから意識を新たに始めよう。

歳末助け合い募金は、直接「〇〇のために」と用途が決められているのではなく、そこに住む人たちが安心して新しい年を迎えることができるための活動に使われるものです。活動の中には、クリスマス会、もちつき大会など自治会が行う地域の行事も含まれていますから、めぐりめぐって募金をしている私たち自身が歳末助け合い募金の恩恵を受けることもあります。津久見市の場合は、実際に経済的支援が必要な小中学生の家庭にも一部届けられています。地域に密着した行事は地域のつながりを強めると共に、ご近所同士で顔を合わせる場をつくる意味もあります。交流することで、孤立しがちな人に「ひとりじゃないよ」というメッセージが伝わります。困ったことが起きてもSOSを求めることは難しいもの。でもなんらかの活動を通じて地域の人たちが交流を持っていれば、困ったときその人にサポートを求められます。「助けて！」を言える人が近くにいることほど心強いことはありません。それはお年寄りや経済的に困っている人だけではなく、そこに住む人たち全員にいえること。それが、安心できる地域づくりでしょう。

さあ、授業開始から30週目。学び残しやつまずきを来年に持ち越すな。「こうありたい自分」や「学級で成し遂げたいもの」とのズレはどうなってる？大切にしたいことには、とことんこだわる！「日本一への本気の挑戦」、ラストの1か月に悔いを残すな！